

A 型肝炎ワクチンについての説明



静岡県立こども病院 予防接種センター

1) 病気の説明

○A 型肝炎

A 型肝炎ウイルスが原因の急性肝炎で、汚染された飲料水や食物を介して感染します。感染から発症までの期間は 2～6 週間で、発熱、体のだるさ、悪心、嘔吐などの症状で発症します。数日後に黄疸が出現し、その後軽快していきます。まれに劇症肝炎を引き起こすことがあります。

2) ワクチンの効果

2 回の接種で 100%免疫がつきます。長期にわたる免疫効果を得るためには追加接種が必要です。

3) ワクチンの特徴

ウイルスを精製した不活化ワクチンです。

4) 接種方法

0.5ml を 2～4 週間隔で 2 回皮下注射します。

長期間の免疫維持を期待する場合は、さらに 24 週以上の間隔をあけて 1 回追加接種を行います。

5) 副反応

副反応の少ないワクチンです。数%の頻度で体のだるさ、接種部位の痛みや発赤、発熱、頭痛などの副反応がみられます。いずれも軽微で、重篤なものはありません。

6) 接種上の注意点

A 型肝炎ワクチンは日本国内では小児への接種は認められていません。

7) 接種後の注意

ワクチン接種後、30 分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ、看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

8) 帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。